

お釈迦さまと農家の対話

(一)

お釈迦さまが、インドのマガダ国という農業が盛んな國にいたときのお話です。お釈迦さまが手に鉢を持ち、家々をめぐり、食べ物をいただく托鉢という修行をしていました。

しかし、その時期はちょうど農家は、田を耕し、そして種をまく忙しい時期でした。そんな猫の手も借りたい大変な時に、穏やかな顔で托鉢をしているお釈迦様の姿を農家の一人が見て、近くによつていき声を荒げていいました。

「お坊さん、私達はこうして田を耕し、種をまいて食を得ているのだ。あなたもまた、自ら種をまいて、食を得たらどうだ」

そんな質問をされてしまいました。私達農家は額に汗し



てはたらいているのに、働かないで食事を得ようとしているお釈迦さまを問い合わせているのです。そんな問いかけにお釈迦さまはさらりと答えていいました。

「その通りである。わたしもまた耕し、種をまき、そして収穫して食を得ています」

農家は自分の耳をうたがうような顔をしてさらに質問しました。

「だがお坊さん、私はあなたが田を耕したり種をまいたりする姿を見たことはないぞ。いつたいあなたの鋤（田をたがやす道具）はどこにあるんだ。あなたの牛はどこにいるんだ。またあなたはいつたいどんな種をまいているんだ。

つづく

